

大学入試改革の行方

共通テスト 配点、問題作成方針を公表

2021年1月に実施される大学入学共通テストの配点や問題作成方針が正式に公表された。各教科・科目の出題方針など改めて確認しておきたい。国語や英語などでは、センター試験とは異なる高校の対応が必要とされている。

大学入学共通テストの出題教科や出題方法など

教科	科目	出題方法	選択方法	解答方法	試験時間	配点
国語	「国語」	出題範囲は「国語総合」		マーク式+記述※ (※近代以降の文章のみ)	100分	マーク式:200点 記述:段階表示
地理歴史 公民	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	「倫理、政治・経済」は2科目を総合した範囲から出題	左記10科目から最大2科目を選択。同じ名称の科目は不可	マーク式	1科目 60分 2科目130分※ (※うち解答時間120分)	各100点
数学	「数学I」 「数学I・A」	「数学I・A」は2科目を総合した範囲から出題	2科目から1科目を選択	マーク式+記述※ (※数学Iの内容に関わる問題のみ)	70分	100点(記述含む)
	「数学II」 「数学II・B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	「数学II・B」は2科目を総合した範囲から出題	4科目から1科目を選択	マーク式	60分	100点
理科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」		左記8科目からA～Dのどれかの方法で選択 A 基礎科目から2科目 B 非基礎科目から1科目 C 基礎から2、非基礎から1科目 D 非基礎から2科目	マーク式	2科目 60分	各100点
	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」				1科目 60分 2科目130分※ (※うち解答時間120分)	
外国語	「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	英語はリーディングとリスニングを出題。リスニングの音源は1回と2回流れるもので構成	左記5科目から1科目を選択	マーク式	【英語】 リーディング 80分 リスニング 60分※ (※うち解答時間30分)	【英語】 リーディング100点 リスニング 100点

各教科、科目はどう変わる

国語

国語は「国語総合」の内容を範囲に近代以降の文章、古典(古文、漢文)から出題する。近代以降の文章では「論理的な文章」「文学的な文章」とともに「実用的な文章」が示されているのが特徴。過去と同様のテストでも著作権の法律などが資料として出された。

また、一つの題材で大問を作成するだけでなく、「異なる種類や分野の文章などを組み合わせた複数の題材による問題」も検討する。

これもプレテストでは、特にエッセーを並べて、表現方法の違いを答えさせるといった形式で出題されている(平成30年実施 第3回)。

新たに導入される記述式問題は、小問3問で構成される大問

数学

数学は、問題解決の「過程」を重視するのが特徴だ。30年のプレテスト第5回では、三角形の各頂点からの距離の和が最小になる点について、2人の会話を文を読み、解決過程を振り返りながら、考察する問題が出題された。問題を通して、事象の数量に着目する△構想・円周角を立てる△目的に応じて数・式・

数学は、問題解決の「過程」を重視するのが特徴だ。30年のプレテスト第5回では、三角形の各頂点からの距離の和が最小になる点について、2人の会話を文を読み、解決過程を振り返りながら、考察する問題が出題された。問題を通して、事象の数量に着目する△構想・円周角を立てる△目的に応じて数・式・

英語

英語は4技能(聞く・話す・読む・書く)のうち「読む」と「リーディング」と「聞く」と「リスニング」を出題する。実際のコミュニケーションの目的や場面に応じて適切に活用できるかを評価する。

そのため、センター試験で出題されてきた発音アクセント、語句整理を単独で尋ねる問題は廃止する。

民間の資格・検定試験も併用する英語の試験では、難易度があらかじめ設定・公表されている。国際標準のCEFRで「A1〜B1」レベルで作成することとした。

リーディングは、複数のテキストから概要や要点を把握したり、情報を読み取ったりする力を測る。リスニングでも生徒の身近な暮らしに関する内容について、リーディングと同様、話の概要や要点を把握する力を測る。

リスニングの音声についてセンター試験では、回数を増やした。多くの民間試験では一回で実施している。これを踏まえ、共通テストでは一回のみの問題も加え、今後、全てのリスニング問題の音源を一回にすることを検討するという。

英語は他にも配点を増やした

公民

「現代社会」は、図や表など多様な資料を使い、データに基づいて考察し、判断する問題を検討中だ。「倫理」の問題作成では倫理的課題について、思考したり批判的に吟味したりする問題、原典資料などを手掛かりに、さまざまな立場から考える問題を想定している。

問題作成方針では、入試センターから大学への成績提供の方法についても示した。共通テストでは個人別成績として得点合計、科目別得点の他に「参考情報」として科目ごとの9段階の成績表示も提供。提供日程は、私立大学には2月9日から、国立大学には2月11日から始める。ただ、国立大学で共通テストを課す「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」は2月10日から行うこととした。

理科

物理・化学・生物・地学の基礎的知識は、基本的な概念や法則などの理解と、それを活用した探究的な過程の理解を重視。問題の作成に当たっては、身近な課題を題材にする。物理・化学

影響をまともに受けるのは、主に難関国立大学よりも、地方国立大学への進学希望者の多い高校になる、と富永教授はみている。

難関国立大学では2次試験(個別試験)に比べ、センター試験の配点は低く、進路指導に力を入れる高校では、センター試験対策に多くの時間を割いていないのが現状だ。各大学の共通テストと個別試験の比重がこれまで通りなら、「センター試験対策を重視している学校」と変化についても言及する。

山本教授は、高校では「生徒が興味・関心を持った題材をネットから記事を探して読み、英語で意見交換するような授業が求められる」と指摘する。

東京都立西園寺高校の布村奈緒子教授は、リーディング問題の変化についても言及する。

「プレテストでは、発音や語句整理が出題されなくなり、リーディングの総題数は増えた。従来通り一文一文丁寧に構文解析を行う読み方は、共通テストには対応できない。文法訳読式の授業をしていた学校は対応が迫られる」と指摘する。

重要性高まるリスニング指導

センター試験から出題方法が目に見えて変わる英語。高校現場ではどう受け止めたのか。数値型立地所出題方針と一致しているため、大きな驚きは「ない」とした上で、配点の変更の影響は大きいと見られる。リスニングの試験時間は変わらず配点はリーディングと同じになることで、「授業でのリスニング指導の重要性は高まるだろう」と指摘する。

リスニング指導について富永教授は、これまで一般的に行われてきた「問題を解く」だけの活動ではなく、聞いたことを基に発表したり、聞いたことに対して自分の意見を述べたりするような、複数の技能を組み合わせた活動を日常的に行う必要があるという。

リスニング重視の方針の

分科会 教科別の授業実践

<h4>英語</h4> <p>安河内 哲也 (東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師) 東京 福岡 名古屋 横浜 大阪 広島</p> <p>山本 崇雄 (新潟県文化小中高校) 札幌 金沢</p> <p>富永 幸 (滋賀県立膳所高校 教頭) 神戸 千葉 / ほか</p> <p>●山本先生からのメッセージ 変わりゆく社会の中で、英語の授業をどうアップデートしていけばいいのでしょうか。本分科会では、教師が生徒に「教える」から、教師と生徒がともに「創造する」授業デザインを具体的な事例と体験を通して提案していきます。</p> <p>●富永先生からのメッセージ 生徒の心を動かす授業…そんな魅力ある授業作りを大切にしながら、入試改革や次期学習指導要領の方向性を踏まえて、持続可能な授業改善を一緒に考えましょう!</p>	<h4>数学</h4> <p>酒井 淳平 (立命館宇治高校) 札幌 千葉 鶴岡 貴司 (東山高校) 東京 福岡 堀内 陽介 (広尾学園高校) 大宮 仙台 村形 政信 (東京都立西高校) 神戸 広島 / ほか</p> <p>●酒井先生からのメッセージ 数学の授業を通じて育てたい力を考えて授業の中で実践するときに、結果的に新テストにも対応した授業になります。本分科会では新テストの傾向をふまえて、数学を通じて育てたい力や授業のあり方を考えます。</p> <p>●村形先生からのメッセージ 主体的な学びには予想を、対話的な学びには比較という観点で、前段の授業の中でちょっとした工夫をお話します。また大学入学共通テストにむけ、定期テストに出題した問題をもとに問題作成の難しさなどもお話しする予定です。</p>
<h4>国語</h4> <p>河口 竜行 (渋谷教育学園渋谷高校) 名古屋 広島 瀬尾 健児 (三田国際学園高校 校長) 東京 大阪 岩田 真志 (東京都立西高校) 大宮 横浜 / ほか</p> <p>●河口先生からのメッセージ 「国語記述式問題の採点」をテーマに、ワークショップ形式で実施します。新テストの問題について、また、そもそも授業で生徒たちが身につけるべき国語の力とは何なのかについて等、参加者同士でも考える機会をしたいと思います。</p>	<h4>探究</h4> <p>中島 博司 (茨城県立並木中等教育学校 校長) 東京 福岡 稲垣 桃子・酒井 淳平 (立命館宇治高校) 大宮 金沢 / ほか</p> <p>●稲垣先生・酒井先生からのメッセージ 探究の実践を進める上で、大切なのはHOWではなくWHYです。本分科会では文科系の指定を受けて取り組んだ実践を紹介しつつ、なぜ探究なのかについて考え、これからはますます重要になる探究の本質に迫ります。</p>

夏 本番間近! 大学入試改革 の教育セミナー

第6回

お申込み受付中!

主催: 日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校)

<h4>基調講演 大学入試改革の講演</h4> <p>義本 博司 (独立行政法人大学入試センター 理事) 福岡 仙台</p> <p>白井 俊 (独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括補佐官(兼) 審議役) 札幌 金沢</p> <p>田村 学 (國學院大学 人間開発学部 初等教育学科 教授) 大宮 ほか</p>	<h4>特別講演 大学担当者による講演</h4> <p>東京大学 理事・副学長 福田 裕穂 東京 / 一橋大学 学長 補佐 三隅 隆司 東京 / 早稲田大学 入試開発オフィス長 小森 宏美 東京 / 慶應義塾大学 入学センター部長 寺島 博之 東京 / 京都大学 高大接続・入試センター 副センター長 木南 敦太郎 / 大阪大学 副学長 豊田 岐聡 大阪 / 関西学院大学 アドミッションオフィサー 尾木 義久 大阪 / 同志社大学 入学センター所長 多久和 英樹 大阪 / 北海道大学 理事・副学長 長谷川 晃 札幌 / 千葉大学 副学長 佐藤 智司 千葉 / 埼玉大学 理事・副学長 重原 孝臣 大宮 / 九州大学 理事・副学長 丸野 俊一 福岡 / 名古屋大学 副総長 佐久間 淳一 名古屋 / 横浜国立大学 理事・副学長 根上 生也 横浜 / 金沢大学 理事・副学長 柴田 正良 金沢 / 神戸大学 理事・副学長 岡田 章宏 神戸 / 広島大学 理事・副学長 宮谷 真人 広島 / ほか</p>
--	---

●講演者情報は随時更新します。詳細はホームページをご覧ください。

夏の教育セミナー summer-seminar.com

